

人工股関節置換術を受けられる患者さまへ

月日(日時)	/	/	/	/ ~ /	/ ~ /	/
経過(病日等)	入院日	手術当日	術後1日	術後2日~7日	術後8~13日	術後14日(退院)
達成目標	<ul style="list-style-type: none"> ◆入院の必要性を、患者・家族が理解し同意する ◆手術前の準備が整っている ◆脱臼を予防するための方法がわかる ◆退院基準を理解し、同意する 	<ul style="list-style-type: none"> ◆麻酔・手術に対して不安が最小限である ◆下肢のしびれや冷感がない ◆痛みがコントロールできる ◆深部静脈血栓の徴候がない ◆脱臼を予防するための方法が理解できる ◆股関節脱臼を起こさない 	<ul style="list-style-type: none"> ◆下肢のしびれや冷感がない ◆痛みがコントロールできる ◆深部静脈血栓の徴候がない ◆脱臼を予防するための方法が理解できる ◆股関節脱臼を起こさない ◆歩行器歩行ができる 	<ul style="list-style-type: none"> ◆下肢のしびれや冷感がない ◆痛みがコントロールできる ◆深部静脈血栓の徴候がない ◆脱臼を予防するための方法が理解できる ◆股関節脱臼を起こさない ◆創の感染兆候がない 	【転院基準】 <ul style="list-style-type: none"> ◆下肢のしびれや冷感がない ◆痛みがコントロールできる ◆深部静脈血栓の徴候がない ◆脱臼を予防するための方法が理解できる ◆股関節脱臼を起こさない ◆1本杖歩行ができる 	【退院基準】 <ul style="list-style-type: none"> ◆下肢のしびれや冷感がない ◆痛みがコントロールできる ◆深部静脈血栓の徴候がない ◆脱臼を予防するための方法が理解できる ◆股関節脱臼を起こさない ◆階段昇降ができる
治療・薬剤(点滴・内服)	持参薬の確認をします 手術前に股関節の動きを測定します 必要時、鎮痛薬(坐薬)を使用します	麻酔科医の指示で内服薬の調整をします 手術後に500mlの点滴が3本あります 必要時、鎮痛剤(坐薬)を使用します	朝夕抗菌薬の点滴があります			
処置		傷口に管が入ってきます 手術室に入る前に弾性ストッキングを装着します 手術後、フットポンプを装着します 痛み止めのチューブが入ってきます	創部・痛み止めの管が抜けます 足首の運動ができたなら弾性ストッキングを脱いで、フットポンプを外します	創の消毒があり、傷口に保護シールを貼ります その後は傷口の観察のみです		抜糸はありません
検査	必要に応じて血液検査や整形外科以外の診療科の診察があります		血液検査があります	術後7日目に血液検査があります		
活動・安静度	制限ありません	手術後3時間はベッド上安静です	歩行器で歩行ができます 積極的に足を動かしてください		一本杖で歩行できます	
食事	夕食まで食事ができます	手術まで食べたり飲んだりできません 帰室3時間後、腹鳴確認後水分を摂取できます その後食事ができます	通常の食事になります			
清潔	入浴ができます		看護師が身体を拭きます	保護シールに変わったらシャワー浴。保護シールが剥がれたら入浴ができます		
排泄	排便の確認をします	手術後尿の管が入ってます	尿の管が抜けてトイレでできます			
患者様及びご家族への説明 栄養指導 服薬指導	受持医が入院診療計画書について説明をいたします 麻酔科医師が診察をいたします 手術室看護師の訪問をいたします 理学療法士が手術後の訓練の説明をいたします 脱臼を予防するための方法について説明いたします 薬剤師が薬についての説明をいたします 治療食の場合は栄養士が食事療法について説明をいたします 入院費は3割負担で概ね60万円になります。(入院費に関するご心配がありましたらお早めに医療福祉相談室にご相談ください)	受持医が手術の結果と今後の治療について説明をいたします 正座や足を内側に曲げないでください	下肢の痛みが強くなる場合は看護師にお知らせ下さい	受持医が病状の説明をいたします リハビリ室での訓練を始めます	転院について説明をいたします 退院後の生活について看護師理学療法士から説明をいたします 一本杖歩行、靴下着脱訓練、床立ち上がり訓練、階段昇降訓練をします	

注1病名等は、現時点で考えられるものであり、今後検査等を進めていくに従って変わることがあります

注2入院期間については現時点で予想される期間です